

Hands On ながさき 2018 年度事業報告

(2018 年度を振り返って)

2018 年 4 月には、長崎県が設置する県民ボランティア活動支援センターの指定管理者の交替と、長崎市が直営していた長崎市市民活動センターが指定管理者制度へ移行した。本会は「相談支援」や「活動者の交流」など両センターと重複する活動もあり、両センターと話し合いながら、純粋な民間の中間支援組織として、両センターを補完する立場で活動した。

また、長崎県は明確に県内の中間支援活動者の育成を目指しており、本会は県の事業への協力や助成金を活用した研修を行い、中間支援活動者の育成に寄与した。

本会組織としては、理事が自覚して役割を担うことにより理事会が機能し、新規事業をはじめ多くの団体と協働し、徐々に本会に対する信頼を構築することができた。理事以外の会員からも中間支援活動に関心を持つ会員が現れるなど、少しずつ中間支援活動の意義が理解され始めている。

本県の県庁所在地の長崎市は 2018 年の人口流出数が 2,376 人と全国 1 位。本県の高齢化率 30.78%は全国 14 位であり平均を上回っている。

また、NPO 法成立 20 周年記念フォーラムを他団体と主催し、演者から支援者、当事者が NPO に参加と協力の機会を奪われていることが報告された。

これらが要因の一部となり、NPO の新たな活動者・運営者が見つからず、「NPO が地域課題解決の担い手」となることが難しい状況にある。

市民自身が課題解決の担い手になるため、受け皿である NPO が市民の参加と協力を発揮する場であること、そのための組織の基盤強化を進める必要性を強く感じた。

I. 団体運営

1. 組織体制

任意団体。会員 12 名。新規入会なし。年末年始（12/28-1/6）とお盆期間（8/11-19）は活動を休止。主に理事が中心となって活動した。役員は次の通り。

代表理事：平山美香 副代表理事：福田浩之 理事：中村尊 理事兼事務局：関根志朗 監事：松野都

2. 会議の開催

2019 年 6 月 1 日に総会を出島交流会館で開催。理事会は随時メッセージャーやカフェ、研修時に開催した。

3. 人材育成の取り組み

本会主催又は外部団体主催の研修への参加、カフェや対象団体の活動現場での相談支援を通して、市民活動の理解をすすめ、相談支援力の向上を図った。

4. 委員会への参加奨励

一般公募委員として本会会員がそれぞれ長崎市市民力推進委員会委員、長崎県 NPO・ボランティア活動推進協議会委員に就任した。

5. 会計処理の変更

本年度は助成事業や年度途中で新規事業に取り組むなど、日々単位での収支状況の把握が必要となったため、事業ごとの収支状況が明確に分かるよう変更した。

II. 会則に定められた活動

1. NPO が持つ各種の資源、技術のコーディネート

(1) ハンズオンカフェ



NPO、ボランティア活動者の交流を目的に、誰でも気軽に参加して NPO、ボランティアのことについてフリートークができるハンズオンカフェを毎月開催、延べ 128 人が参加した。(通

算 76 回、同 502 人)。NPO、ボランティア活動者の繋がりを作る事ができた。テーマは下記の通り。

4 月	助成金申請のポイント
5 月	人が集まるイベントの作り方
6 月	クラウドファンディングで 50 万円の Goal を超えたハナシを聞いてみよう ※長崎市立図書館と共催
7 月	話し合いが進むトークスキルを学ぼう
8 月	WordPress を使ってみよう
9 月	「それ労働者ですよ」と言われなかったためのボランティアマネジメント ※公益財団法人県民ボランティア振興基金 NPO 育成専門相談事業
10 月	NPO リソースマップ中間報告・ご意見募集の集い
11 月	NPO チラシ品評会&チラシの作り方 ※県民ボランティア活動支援センター主催、本会共催
12 月	NPO を運営する裏方さんの集い
1 月	長崎市長候補さんに聞こう！市民活動、協働に関するアンケート調査（仮） キックオフミーティング
2 月	NPO リソースマップ テスト版を作ろう 意見を求めるの会
3 月	ボランティア団体の作り方

（2）長崎県外出身者からみた長崎の街の開催（3 回）

県外出身者の居場所作りを目的にコワーキングスペース minato と協働し開催。延べ 28 名参加（通算 80 名参加）。「長崎のことが分かってよかった」「自分の言葉で話すことができた」といった感想や、知り合った参加者同士によるイベントの実施、参加した長崎市商工振興課職員から「新しい農産品について県外出身者の意見を聞いて良かった」という意見があった。

（3）補助・助成成団体の担当者セミナー

補助金・助成金を提供する行政及び助成団体の担当者を対象に、どのような助成が効果的なのか、申請事業を採択するポイントについて学ぶことを目的に企画。しかし、他県の実績で参加者が少ないこと、参加者の満足度が低かったこと、県内の行政及び助成団体のニーズ把握ができていないことから実施を見送った。（2017 年 1 月の北部九州中間支援ネットワークで出た意見の一つ）

（4）寄付を活用するための仕組みづくりの研究

休眠預金等活用法により 2019 年 1 月に指定団体が選定された。国が示した当初のスケジュールから遅れている。全国コミュニティ財団九州沖縄支部会議へ参加し情報を収集した。

2. 自立のための組織運営、自主財政、人材集め、広報などのマネジメント及びトレーニング

(1) 長崎県中間支援組織による NPO 組織力強化事業への協力 (2018. 8. 2~2019. 3. 19)

長崎県内の NPO 法人の組織基盤強化及び長崎県内の中間支援者の育成を目的に長崎県が実施。事業のメインコーディネーターである NPO 法人ミディエイドと共に本会会員 4 名が支援員として相談支援の活動をした（派遣は延べ 15 回 20 名）。

各法人が抱える組織上の課題解決に一部繋がるとともに本会会員の相談支援力の向上につながった。また活動の中間及び終了後のミーティングに参加し今後の県内の NPO 支援の方法などについて協議を行い、県内の中間支援活動者の育成に寄与することとなった。



対象法人と主なテーマは次の通り。

- ① 認定 NPO 法人心澄（長崎市）本会支援員参加 4 回/全 6 回
行政とのつながりづくり、協働の戦略作り
- ② NPO 法人山田・館浦まちづくり協議会（平戸市）本会支援員参加 6 回/全 6 回
事務局体制の強化、事業の優先順位付け、事業収入の拡充
- ③ NPO 法人小値賀アイランドツーリズム協会（小値賀町）本会支援員参加 5 回/全 6 回
運営体制の再構築

(2) 講師派遣

本年度は講師派遣の依頼はなかった。

(3) 大学生と NPO のコミュニケーションカフェ

大学生に対して長崎市内の NPO がどんな課題に対してどんな活動を行っているかを知るためのきっかけを作ることを目的に企画。詳細は下記 5 (1)。

3. NPO・ボランティア活動の発展のための社会基盤の整備、調査、研究

(1) 中間支援団体スタッフ組織運営支援力アップ研修の開催



(2018. 10. 1~2019. 2. 12 延べ 8 団体 40 名参加)
(公財) 県民ボランティア振興基金の助成事業。
長崎県内の中間支援活動者を対象に、運営支援力を高めることと交流を目的に開催。参加者アンケートでは研修後の相談対応が「概ねできた」が 77%に達するなどスキルアップに貢献した。一方で全く参加しなかった団体もあり中間支援活動に対する温度差を感じた。事例提供は

県民ボランティア活動支援センター、長崎市市民活動センター。スーパーバイズ及び研修講師は NPO 法人ミディエイド。各回のテーマは下記の通り。

相談事例検討会 1 人材育成、ボランティアマネジメントに関する相談事例

相談事例検討会 2 企画立案および広報・募集・情報発信に関する相談事例

相談事例検討会 3 事業および組織運営に必要な資金調達に関する相談事例

総合研修 NPO 法人・ボランティア団体の組織運営相談に関する総合研修

(2) NPO 法成立 20 周年記念フォーラム in 九州の開催 (2018. 11. 18 福岡市 71 名参加)

日本 NPO センター等が主管となり、全国 8 都市で開催。NPO 法が成立した背景や目的、現状を学び、今後の活動ビジョンを描くことが目的。

認定 NPO 法人アカツキ（福岡）の依頼により実施主体として参加。同法人及び一般財団法人くまもと未来創造基金（熊本）と 3 者で協働。本会は企画運営の一部を担った。NPO 法の趣旨を理解し、「市民の参加と協力」をどう進めていくのかが取り組むべき喫緊の課題であることが明らかになった。



4. NPO・ボランティア活動のための各種相談対応

(1) ハンズオンクリニック

新規相談 94 件（累計 373 件）メールや電話、活動現場で相談を受けた。

昨年度まで 7 件あった NPO の設立相談が 0 件になった。これは県民ボランティア活動支援センターが NPO の設立相談に対応できるようになったことが大きいと思われる。

また今年度は事業実施や RP についてなど、具体的な活動についての相談が増加した。

個人からの相談と法人・団体からの相談割合を以前と比べると、法人・団体からの相談割合が 3/4 を占めるようになり、本会として団体支援の取り組みが見られる結果となった。

相談内容と件数は下記の通り（新規相談のみで継続相談は含まない）。

個人の相談	件数	法人・団体の相談	件数
事業実施について	7	事業実施について	13
NPO の照会	6	団体の運営	11
団体の運営	1	活動の PR について	9
活動の PR について	1	NPO の照会	7
NPO 同士のネットワーク	1	助成金について	6
活動を始めるにあたって	1	行政との連携について	4

資金調達について	1	講師等の紹介	4
今後の活動方針	1	物品の寄贈について	3
		会計処理について	3
		指定管理者制度について	3
		NPO 同士のネットワーク	2
		災害支援活動	2
		資金調達について	2
		ボランティア募集	2
		労務管理	2
		運営人材の確保	1
		寄付金について	1

5. 若者を中心としたボランティア参加の促進

(1) ながさき NPO リソースマップの作成



NPO のありのままの状況を調べ、ボランティア希望者とマッチングを進める事を目的にテスト的に実施。

長崎大学やってみゅーでスクから紹介された大学生ボランティアと一緒に 4 団体を取材しマップを作成し、ブログで公開した。

参加した大学生ボランティアからは「長崎にこれらの課題、活動があることが発見だった。

取材した団体の活動に参加してどう対応すればいいのか戸惑ったこともあった。またいろいろな団体のことを知りたい」という感想があり、若者のボランティア活動参加に貢献した。取材協力団体は下記の通り。

NPO 法人チャイルドラインながさき／Take it!虹／nobiya／全国膠原病友の会長崎県支部

6. 地域情報化

(1) ラジオ番組「なないろパーク」

長崎シティ FM とアートクエイクとの 3 者協働で、ながさきのまちづくりについて自由に話し合う番組。「なないろ」は誰でも、「パーク」集える場所という意味。今年度は 25 回放送した（通算 93 回）。また、ラジオ番組の出演者が顔を合わせる同窓会を開催し交流を深めた（2018. 5. 26 12 名参加）。

今年度は、長崎都市景観・研究所（通称 null）が準レギュラー化してきたこと、ゲストの調整が難しくなってきたことを理由に、本会は次年度 4 月を最後に実施主体から降板することとした。

(2) 情報提供

NPO、個人ボランティアの活動に役立つ情報を主にブログで提供した。3 月末までに 222 件（累計 1495 件）。

また今年度からリニューアルされた「ながさきボランティアネット」も活用。より使いやすいポータルサイトになるよう利用者として同サイトの運営者（県民協働課）へ意見を述べた。同サイトでは助成金情報及び団体のイベント情報を知ることができるため本会ブログでは助成金、イベント情報を取り上げる頻度を減らし効率化した。

7. その他

(1) 災害支援活動



平成 30 年 7 月西日本豪雨災害が発生し、佐賀県佐賀市で災害ボランティア活動を行った。また、本会ブログ「災害ボランティア活動の準備について（2018. 7. 8）」で活動希望者への支援を行ったところ、この記事参考に、認定 NPO 法人市民活動センター神戸のホームページに「兵庫県での災害ボランティア、寄付等ご支援をお考えの皆さまへ（2018. 7. 20）」と題された記事が掲載された。

(2) NPO 主催イベント等への協力

NPO の事業効果を高める支援するため各種イベント等へ参加協力した。

第 3 回ながさき愛の映画祭（2018. 11. 9-11、長崎市）では実行委員として参加しクロージングイベント及びアンケート集計を担当し課題と成果を実行委員会で検証した。

(3) 長崎市長選挙立候補者予定者への市民活動、市民との協働に関するアンケート調査
新市政における市民活動支援、市民との協働についての方針を知るために実施。2019 年 4

月の長崎市長選挙に立候補する予定の 5 名に対し長崎市内の団体の連名で、市民活動及び市民との協働の推進について市民活動支援、協働についての考えを聞くアンケート票 1、全国で実施された第 5 回都道府県・主要市における協働環境調査（2014 年度 IHOE 実施、ハンズオンながさき協力）に基づき全国の他の自治体と比べることができうるアンケート票 2 により調査を行った。5 名の立候補予定者から寄せられた回答は本会ブログで公開した。賛同団体は次の通り。

アートクエイク／いろは塾／NPO 法人インフィニティー／NPO 法人フリースクール クレイ
ン・ハーバー／全国膠原病友の会長崎県支部／自然共育コミュニティ森のわ／ジュニア
リーダー「空」／認定 NPO 法人心澄／NPO 法人スポーツ&エデュケーション長崎／NPO 法人
相談室ほっとルーム／ちゃんぼん学校／Take it! 虹／NPO 法人長崎県子ども劇場連絡会／
（特非）長崎県難聴者・中途失聴者協会・長崎支部／長崎こども食堂ネットワーク／長崎
シティ FM／長崎発達支援親の会 のこのこ／一般社団法人ナガサキベイデザインセンター
／ファシル／フォーカス長崎／不登校・ひきこもり情報誌「今日も私は生きてます。」編集
部／みんなで暮らす凸凹（でこぼこ）ひろば

（４）各種研修会等への参加

他団体が主催する各種研修会、総会などに参加し、視野を広げ、繋がりを作るとともに支援に必要なスキルアップを図った。